

JR守山駅東口全体の在り方検討に伴う 「新都賀山荘」配置の再検討などについて



広報もりやま

2月15日号 4~5頁

問地域振興課 ☎(582)1165 📠(582)1166

現在、JR守山駅東口(以下「東口」)における株式会社村田製作所の「研究開発拠点」などについては、1月20日策定の「具現化方針」(詳細は、2月15日号4~5頁に掲載)に基づき、具体的な取り組みを進めるとともに、東口における人と車の動線などの在り方を含め、「東口全体の在り方検討」を実施しているところです。

「東口全体の在り方検討」の中で、既存のJR貨物用地を活用し、東口ロータリーを再整備することで、ロータリー機能がより効率的となる可能性があることが分かりました。

また、この東口ロータリーの再整備により、JR貨物用地※および現在の東口ロータリーの土地を合わせる形で、約5,000㎡の土地を確保できる見込みです。

※守山市とJR貨物との間で、JR貨物所有地の利活用を両者で検討することの確認書を交わしています。

仮に、上述の土地利用を行う際、「具現化方針」に基づき新都賀山荘を東口トイレ周辺で整備した場合にあつては、新都賀山荘がビルに囲まれる形となり、日照などの関係で、環境として望ましくない可能性が極めて高い状況にあります。

これらを踏まえ、「東口全体の在り方検討」において、東口全体の最も望ましい土地利用について、費用対効果を含めて、大所高所から検討する必要があるため、東口ロータリーの再整備、JR貨物用地の有効活用および新都賀山荘の最適な位置(再整備後の新ロータリーに面する好立地な場所であり、かつ、速やかに整備着手できる配置を前提)について、さらに検討を進めてまいります。

「東口全体の在り方検討」は、新都賀山荘の整備を早急に行う観点から、今年度上期に方向性を出せるよう、JR貨物、一般財団守山野洲市民交流プラザ、守山市、JR西日本など関係者で、鋭意、議論を進めてまいります。また、JR貨物用地および現東口ロータリーを合わせた土地の有効利用の検討については、近隣の住環境に十分配慮するとともに、今後の検討状況については、広報などで情報提供してまいります。

なお、これらの取り組みを進めるにあたり、「守山駅前東口公衆便所」については、当面の間、利用できるよう再開いたします〔7月1日(金)から利用再開〕。

守山駅前東口公衆便所を利用再開します 使用開始日 7月1日(金)~

